栄光園だより

第134号

2024年1月31日発行
発行
社会福祉法人 栄光園
別府市南荘園町3組
〒874-0904 電話（23）2827
http://www.eikoen.jp/
編集 広報誌編集委員会
印刷 大野印刷株式会社
別府市青山1－7 電話（21）0505

心の健康、心の病気

評議員 影山 隆之
（大分県立看護科学大学 看護学部教授）

昔からいろいろな賢人が、心の健康や心の病気の意味（定義）を考えてきました。そこには現代人が学ぶべきことが大いにあるので、その一端を紹介します。

健康日本21によれば心の健康とは、自分の感情に気づいて表現でき（情緒的健康）、状況に応じて適切に考え現実的な問題解決ができ（知的健康）、他人や社会と建設的でよい関係を築けること（社会的健康）であり、さらに人生の目的や意義を見出し主体的に人生を選択できること（人間的健康）も大切だと指摘します。これを完全にできている人はいないでしょうが、なかなか味わい深い説明だと思います。

常識的には、健康の反対は病気です。医学的には、心の病気（精神疾患）の他に「知的障害」や「発達障害」と呼ばれるものを加え、精神障害（mental disorder）と呼びます。精神障害は肝障害・感覚障害などいう言葉と同様に、その人の人間性のような内部属性でなく、人格の外に存在する不調を指すことですから、害の字を使っても差別ではありません、本稿でもこのまま使います（「障害者」という言葉は問題ですが）。

精神障害には多くの種類があり、それぞれ診断基準があります。原因を問わず、症状や経過を見て診断を決めるのが、世界的潮流です。正しい診断は、治療指針を考えるために必要なだけでなく、仕事や学校を休む際の診断書を書いたり、福祉などのサービスを受けたりする際にも必要で、社会的効力を持ちます。ただし実は、多くの精神障害の診断基準に「そのことで日常生活や社会参加に差し支えがあり苦しんでいる」というような条件が付きます。そもそも、本人や周りの人が、現在も将来もまったく困らなければ、診断は必要ありません。困る場合にこそ、その解決方法を考える助けとして、診断が必要なことがあります。

ここで、精神障害の原因はストレスだと考えがちですが、実はそれはごく一部です。その他に、脳の働きが不調を起こす精神障害がたくさんあって、その一部は原因不明です。もしストレスが原因ならば、生活環境から原因を除去したり、原因とのつきあい方を変えたりすることが治療になります。一方、脳の働きが原因の精神障害には、治療や症状緩和がかなり可能な種類と、難しい種類があります。前者では、脳の働きを整える薬に加え、自分や家族が病気について学ぶこと、作業療法、運動療法、その他各種のリハビリテーションが開発されてきたので、精神科で早く診断を受けて治療を始めれば、三十年前に比べ相当よく回復できます。

けれども本当の問題は、医学的治療よりも、生活や人生への差し支え、つまり本人の困り（生きづらさ）です。こんな仕事をしたい、友だちがほしい、結婚したい、自分で子どもを育てたいなど、その人が願う生き方の妨げになるかどうかです。いくら「障害ではなく個性です」と言い換えても、生きづらさが大きければたいへんです。生きづらさを小さくするために、病気の治療だけでなく、福祉サービスや、仲間の支援が役に立つ場合もあるでしょう。人生の目標をリセットして、結果として生きづらさが小さくなるならば、それでもいいのかもしれません。その人なりの「目指したい自分」に近づき続けるこの過程を、最近ではリカバリーと呼んで、治癒ではなくこれを回復目標と考えるようになりました。

考えてみれば、健康な人でも人生の願いを完全に達成することはあり得ないわけです。それに近づきたいと願い、どう努力するか、どんな助けをもらうか、どうリセットするかが大切なのは、誰にとっても同じことです。精神障害ゆえにこういうことを意識せざるを得ない方々は、健康と言われる人々の先を行く奮闘者なのです。

謹賀新年

いつも社会福祉法人栄光園に対する格別のご厚誼を賜り、心から感謝いたします。
本年も相変わりませずご指導・ご支援を賜りたくお願い申し上げます。

2024年 1月

社会福祉法人 栄光園 理事長 江口 敏一
児童養護施設 栄光園 施設長 岡田 豊弘
乳児院栄光園 施設長 安西 恵子
青山保育所 所長 本庄 智宏
野口保育所 所長 工藤 直子
職員一同

児童養護施設

4年ぶりのクリスマス祝会

保育士　藤本　一明

新型コロナウイルスの猛威により、開催を見合わせてきた「クリスマス祝会」を、4年ぶりに開催することができました。久々の開催のため、外部の方を招くことなく規模を縮小して、児童らが楽しんで参加できるように内容の一部変更を行いました。こちらでは、その準備や本番の児童らの様子を簡単にではありますが、伝えさせていただきます。

4年ぶりということで「クリスマス祝会」そのものを知らない、もしくはあまり経験したことがない児童と職員がいるため、どのようなものなのか知ることから始まりました。

恒例の聖劇も以前行われていたイエス・キリスト聖誕劇ではなく、生誕を題材にした絵本の朗読を小学2年生から6年生で取り組み、大きな声で朗読することと賛美する難しさを学んだようでした。

幼児と小学1年生は、有志発表として児童らが取り組みたいことを尊重し、どのようなものがいいか検討し、ダンスに取り組むこととなり、小学1年生の2人は1曲多めにダンスをしたいと希望もあって、楽しんで練習に励んでおりました。

中高生は女子児童を中心に、動画の作成、聖歌と漫才をしたいという希望があり、職員と構成を練り、練習を重ね楽しんで準備を行えたようでした。

本番では緊張もある中、練習の成果を発揮し、活き活きとした表情で楽しんで発表ができました。発表した児童らはたくさん褒めてもらい、観覧している児童と職員らはたくさんの笑顔で満たされました。

今回は規模を縮小しての開催でしたが、児童らの熱意と、職員が一丸となって行事を作ることで、一つのことを共に成し遂げることの素晴らしさを再確認出来た行事となり、私たちにとって何物にも代えがたいクリスマスプレゼントをいただいたように感じました。

オゴウホームの生活

児童指導員　安部　順之亮

今年も厳しい寒さの季節がやって参りました。現在オゴウホームでは、小学校1年生から高校3年生までの計5名の女子が生活しています。年齢層が幅広いことから様々なトラブルが起こりますが、全員で乗り越えながら楽しく生活しています。

先日施設内で4年ぶりに行われたクリスマス祝会では、オゴウホームの小学生3名が大活躍でした。聖劇と呼ばれる聖書をモデルとした劇では、マリアや天使の役を担当し、セリフや歌の練習を頑張りました。本番はかなり緊張した様子でしたが、大きな声ではっきりとセリフを言うことができ、練習の成果を発揮することができました。オゴウホーム最年少の小学校1年生は全員の前でダンスを披露しました。ホームでも中高生に見守られながら何度も練習し、一生懸命努力する姿が見られました。本番では難しい振り付けも完璧に踊ることができて満足そうでした。祝会後の夕食では無事に祝会を終われた喜びで大いに盛り上がり、「来年もやりたい」と言う声も聞くことができました。

私は今年度入職したため、現在オゴウホームで生活する5名の子どもたちが最初に受け持つ子どもたちとなりました。思春期や私が異性と言うこともあり、日々関わり方に苦戦していますが、彼女たちにとって家庭的で安らぎのある環境を作って行きたいと思っています。それぞれ理由があり、オゴウホームで生活していますが、子どもたちが大人になった時オゴウホームで過ごせたことが人生の糧となることを日々願っています。

マツモトホームの生活

児童指導員　吉村　綾香

マツモトホームは、中学生4名、小学校高学年1名の5名で生活しています。

みんなでトランプやウノをしたり、人狼ゲームをしたり、ドラマを見たりして楽しく過ごしています。また、テスト週間にはみんなで勉強したり、他児の勉強する姿を見て刺激を受けたりと切磋琢磨している様子もあります。年齢が近いこともあり、共通の話題が多く、毎日楽しく生活しています。

部活動に入部している子どももいます。運動部と文化部それぞれの部活で楽しく活動しています。自身の自己ベスト記録を目指して日々努力していたり、市の大会で勝ち進み、県大会に出場したり、コンクールで入賞して九州大会に出場したりとそれぞれ頑張っています。

また、今年は2名の受験生がいます。公立の志望校を目指して受験勉強に取り組む子どもには、学習に集中できる環境を提供したり、塾や図書館を活用して学習したりしています。支援学校高等部

への進学を目指す子どもには、障害告知をして自身の特性への理解を促したり、面接の練習をしたりしています。その中で大切にしていることは、最終決断を子ども自身にしてもらうことです。志望校を決めたり、支援学校への進学を決めたりするために、必要な情報を提供し、自身のこととして捉えてしっかりと考えてもらうようにしています。職員に相談しながらも、「自分がどうしたいか」を最優先にし、何かあったときに他責にならないよう、将来のことを自身でしっかりと考えられるよう支援しています。

乳児院

新年度に向けて

乳児院 施設長 安西 恵子

新年明けましておめでとうございます。

今年は元旦から、こどもたちは元気いっぱい。お年玉をもらい、おせち料理を食べ、お正月の歌を唄ったりお絵描きしたり散歩したりと、それぞれ楽しいお正月を過ごしました。

乳児院は今年度改築をしております。グラウンドに建ち3月下旬に完成予定となっております。こどもたちは、4月には新しい院舎で暮らすようになります。家庭的なリビングや寝室やミニキッチン、ユニットバスやトイレもより家庭的になっています。

来年度からは、地域支援や里親支援にもより力を入れていきます。

ショートステイ専用の居室や親子訓練室が2室。離乳食教室や沐浴教室などもあり地域の方々や里親さんが気軽に集う場所にしていけたらと今から計画中です。

4月から新たな出発です。3月末には新しい院舎に引っ越しできることを、今からこどもたちと楽しみに待ちたいと思います。

園外保育に行ったよ

りすグループ保育士 佐藤 美優

今年は暖かい日が続いた為、園外保育へ行く日が多くありました。

乳児院から歩いてコスモスまで行き、『初めての買い物』をしました。初めて入るお店に、子どもたちは興味津々です。お菓子コーナーへ行くと、お菓子を握って離そうとしません。Aちゃんが離さなかったお菓子と公園で飲むジュースを買って南立石公園へ行きました。公園には、落ち葉がたくさんあり、保育者が「カシャカシャ」と落ち葉の音を鳴らすと、ニコッと笑いながら子どもたちも真似して音を鳴らしていました。遊んでいると、「ワン」と鳴き声が聞こえました。おそらく『初めての犬』です。犬を見つけると、Aちゃんは怖がった様子で保育者にしがみついていました。Bちゃんはじっと見て、犬が近くへ来ても怖がる様子はありませんでした。

園外保育では『初めて』がたくさんあります。これからも様々なことを一緒に体験し、楽しい気持ちを共有しながら思い出をたくさん作っていきたいと思います。

自分で靴下を脱ぐよ

うさぎグループ保育士 木下 紗矢香

現在、うさぎグループは3名（1歳5ヵ月～1歳10か月）の子どもたちで生活をしています。今年は暖かい日が多く、たくさん散歩に出かけました。最近は、〝自分でする〟の気持ちが多く表れてきています。その一つが、『靴下の着脱』です。保育者が自分で着脱するように促すと、まずは〝自分でやってみよう〟とする姿があります。上手く着脱出来ない時は、「あー」や「しーて」と保育者に知らせます。脱げなかった気持ちに共感し、保育者が踵の部分を一部介助した後は自分で脱ぐことが出来ていました。自分で脱げたことに対し、とても嬉しそうな表情をしていました。

現在、月齢の高い子どもたちは保育者が声を掛けると、自分で靴下を脱ぐことが出来るようになりました。月齢の低い子どもたちは、月齢の高い子どもたちの真似をし、〝自分でやってみよう〟とすることが多くあります。日々成長していく子どもたちに驚かされることが多い毎日です。

素敵な経験

ぞうグループ保育士 竹之内 菜々未

現在、ぞうグループは（1歳10ヶ月～3歳9ヶ月）3名の子どもたちで過ごしています。日常生活では、物の貸し借りや、子ども同士のコミュニケーションが多く見られます。生活面では、日中はトレーニングパンツを穿き、トイレットトレーニングを頑張っています。便や尿が出そうになると、保育者を呼び教えてくれます。トイレでの排泄の成功が多くなり、成長をとても感じます。

先月、児童養護施設で行われた『くるみの会』にぞうグループの子どもも2名参加してきました。『くるみの会』では、バイオリンやピアノの演奏を聴きました。絵本やテレビで見たことがありましたが、初めて本物を見たり聴いたりすることが出来ました。楽しかったようで、保育者に「ピアノ凄かったね」や

「これ貰ったんだよ」と『くるみの会』が終わった次の日も何度も教えてくれました。これからも、子どもたちと素敵な経験をたくさん作っていきたいと思います。

青山保育所

楽しかった発表会

保育士　荒金　由妃

12月に発表会が行われました。うさぎ組0歳児のお友だちは初めてのステージ発表でした。子どもたちの好きな絵本や曲を題材にしたため、機嫌よく遊びに参加していました。練習当初、子どもたちは周りの様子を伺うようにキョロキョロする姿がありましたが、曲や絵本に慣れ親しむと、体を揺らすことを楽しんだり、友だちや保育士と笑いながら遊びに参加したりして発表会当日を迎えることが出来ました。

本番では緊張して立ち尽くしたり、動きが小さくなったりする姿もありましたが、多くのお客さんの前で誰も泣かず参加することが出来て、その姿に感動しました。

遊びの中で子どもたちは友だちと一緒に抱き合ったり、できた時には一緒に拍手をしたり、友だちや保育士とのやり取りを楽しむ姿があり、他者との関わりが増え始めたように感じました。日常の遊びの中でも笑い合っていることが多く、発表会の遊びを通して、自分だけではなく保育士や友だちの存在を意識して一緒に遊んだり、触れ合ったりする楽しさを感じられているように思いました。

冬の体験

保育士　渡邊　歩

12月は寒波の影響で気温が下がり雪も降り、とても寒い日がありました。

きりん組3歳児のお友だちは、前日にみんなで容器に張っておいた水を翌日の朝見てみると薄い氷が出来ているのに気がつきました。氷を見たり指先で触れたりして感動する様子の子どもたちでした。また、園庭のところどころに残った雪を集めて固めて嬉しそうに見せてくれる子どももいました。3・4歳ごろの子どもは、自分の手を使い感覚を働かせ、見たり触れたりしながら自然物などの特性を知り、より豊かな関わり方や遊び方を体得していく時期です。今回は冬の自然に触れる体験ができましたが、これからも自然物で遊ぶ楽しさを十分味わえるようにしたいと思います。

クリスマス会に参加しました

保育士　後藤　美里

ぱんだ組1・2歳児のお友だちはクリスマス飾りを作ったり、保育士が飾り付けをして部屋が少しずつ華やかになる様子をよく観察していて、新しい飾りが増えるたびに指さしたり、保育士に知らせたりして当日を楽しみに待ちました。子どもたちがずっと楽しみにしていたクリスマス会当日は、クリスマスのお話を聞いたり、みんなで歌を歌ったりいつもと違う雰囲気にとても楽しそうな子どもたちでした。サンタさんにプレゼントをもらったり、クリスマスランチを見て「わ～」と嬉しそうな表情でモリモリ食べたり、クリスマス会を存分に楽しんでいました。来てくれたサンタさんに怖がる子どももいましたが、プレゼントはしっかり貰い「ありがとう」と伝えることが出来ていました。

ドキドキワクワク体験遠足

保育士　宮本　真耶加

5歳児のお友だちは体験遠足に行きました。ホルトホール大分へ行き、溝部学園短期大学生による〝ミュージックカーニバル〟を観ました。その後レストランでランチを食べ、アミュプラザ大分でお買い物をして屋上広場で少し遊びました。帰りは切符を駅員さんに渡し、電車やバスに乗って保育所まで帰ることができました。

今回の遠足では〝ユニバーサルデザインを探してみよう〟をサブテーマに街にあるユニバーサルデザインを探しました。街中で点字ブロックやピクトグラムの看板などを見つけると「ここにあるよ！」などと友達同士で教え合う姿が見られました。

レストランや商業施設など保育所とは違う公共の場所での上手な過ごし方やユニバーサルデザインについてなどたくさんのことを学び、体験することができた遠足となりました。体験遠足を通して社会の様々なことに興味を持ち、気付いていた子どもたち。そういった好奇心を大切にしながら進学に向けて、新しいことを知る機会をたくさん作っていきたいと思います。

美味しかったね、味覚祭り♪

保育士　結城　奈津美

11月に『秋の味覚まつり』が行われました。うさぎ組0歳児のお友だちが園庭で遊んでいると、園長先生が炭火で焼いているサンマの香ばしい良い匂いが…。

お兄ちゃんお姉ちゃんがクッキングで割いたキノコや野菜が入った具沢山のけんちん汁に鶏ごぼうご飯と豪華なメニューで子どもたちもよく食べていました。15時のおやつはフルーツバスケットで、『みかん・ぶどう・りんご』を触ったり匂いを嗅いだりし、目の前で皮を剥いたり切ったりしてもらいました。目の前で出来上がる様子を見たり、においをかいだりすることは食べる意欲につながり、とても大切なことだと再確認しました。これからも五感を使った食育活動を取り入れていきたいと思います。

野口保育所

主任保育士　末吉　佳奈

明けましておめでとうございます。本年もよろしくお願い致します。

昨年の秋から冬にかけての行事を、少しずつですがご紹介いたします。

運動会

今までは人数制限や感染症対策を行いながらの運動会でしたが、今年は4年ぶりに人数制限がない運動会を10月6日(金)市民体育館で行いました。観に来て頂いたたくさんのお家の方が拍手で応援してくれ、子どもたちは最後まで頑張っていてとてもかっこよかったです。保育所の大きな行事の一つである運動会を経験したことで子どもたちの自信となりまた一つ成長したのではないかと思います。

秋の味覚祭り

秋といえば〝食欲・味覚の秋〟ということで、食育の一環で味覚祭りを行いました。0歳児はきのこに触れてみたり1、2歳児クラスは野菜をちぎり、3歳児は野菜の型抜き、4、5歳児はピーラーや包丁を使って野菜を切りました。残念ながら雨が降ってしまったので、各クラスでの給食になりましたが給食の先生がテラスで鮭のちゃんちゃん焼きを焼いてくれたり、豚汁を作ってくれたので、いい匂いが保育所中に広がりました。

発表会

12月2日(土)はコミュニティーセンターで発表会を行いました。緊張する子どもたちもいましたが、お家の方がたくさんの拍手をしてくれ、発表会を最後まで笑顔で楽しんでいました。子どもたちの一段と成長した姿を発表会で見て頂けたのではないかと思います。

もちつきしたよ！

全クラスで餅つきをしました。3・4・5歳児が「ぺったんこ～それぺったんこ～♪」と歌いながら杵でもちをつき、出来たてのお餅を砂糖醤油や黄粉で食べました。出来たてのお餅は「美味しい！」「柔らかい！」と、とても喜んで食べていました。2回目は各クラスで鏡餅を作りました。昔ながらの伝統ある餅つきを子どもと経験することが出来て、またひとつ楽しい思い出が残りました。

クリスマス会

子どもたちが、毎年楽しみにしているクリスマス会！保育室・廊下・窓に飾られたクリスマス一色の飾りの雰囲気に毎日「サンタさん来るかなー」と楽しみにしている様子でした。会では保育士の劇やハンドベルを見たり、サンタさんとトナカイさんがプレゼントを持って来てくれたり、サンタさんと一緒にダンスも踊りました。

給食の先生が作ってくれたクリスマスランチを嬉しそうに食べて楽しいクリスマス会になりました。

園内研修について

今年度は青山保育所と合同で〝子ども一人一人を大切にする丁寧な保育を目指して〟をテーマに基づいて、青山保

育所と野口保育所でお互いの研究保育を交互で行い、九州産業大学子ども教育学科の阿部敬信先生にも助言して頂きながら、園全体で勉強しています。

園内研修で感じたこと

保育士　三澤　亜美

園内研修で設定保育をすることで、いつも以上に担任同士で話し合いを重ね、クラスの子どもたちが活動についてどうすれば子どもたちがより楽しく、成長につながる遊びになるかなど保育の内容を再確認し、保育の内容を深める事ができました。また設定保育を見てもらい、意見をもらうことで自分たちに足りなかった部分に気づき、良かったと言ってもらえた部分については今後も意識しながら続けていく事が大切だと感じました。

最後に子ども一人ひとりとしっかり触れ合い、子どもたちが毎日楽しく過ごし卒園していく子どもたちにも良い思い出が出来るように、残りの3か月も職員力を合わせて頑張っていきたいと思います。

本年もどうぞよろしくお願い致します。

野口保育所　職員一同

地域交流事業　集いの場　くるみ

地域支援担当　原田　康子

10月のくるみは、ハロウィンのイベントを行いました。

「ハロウィンかぼちゃバッグ」を作ったり、「目玉リレー」「ミイラゲーム」などのゲームをしたり、「ハロウィンはおおさわぎ」などのダンスを踊ったりして楽しみました。食事も子どもたちが大好きなピザやスープ、ゼリーなどでおいしそうに食べてくれていました。笑顔でいっぱいの会となりました。

11月のくるみは、ボッチャをしました。

これまでは、なるべく制約のない形のルールで行ってきましたが、今回からは、コートに作った枠の中から順番に投げていくという正式なルールで行いました。子どもたちは、これまでにもボッチャを何度も経験しているので新しく加えられたルールにもすぐに対応することができていました。

今回は、幼稚園に通う子どももやる気を出して頑張っていました。年齢差はありましたがお互い譲り合いながらゲームに参加していました。中には、順

聖書の言葉

ハレルヤ。新しい歌を主に向かって歌え。
主の慈しみに生きる人の集いで賛美の歌をうたえ。

（詩編149編1節）

別府不老町教会　牧師　尾崎　二郎

イエス様が、私たち一人ひとりの内に来られた訳は、私たちに、暗い心を捨てさせ、代わりに、賛美する心と体を持たせるためです。旧約聖書では、主なる神が、ひたすら嘆いている人々を捉えて、次の様に語っています。

シオンのゆえに嘆いている人々に灰に代えて冠をかぶらせ嘆きに代えて喜びの香油を暗い心に代えて賛美の衣をまとわせるために。彼らは主が輝きを現すために植えられた正義の樫の木と呼ばれる。（イザヤ書61章3節）

これから私たちが、暗い心に代えて賛美の衣をまとうために、「新しい歌」を歌っていきましょう。では、新しい歌とは、どんな歌かと言いますと、次のようなことになります。

①新しく作った歌
②心新たにして歌う歌
③心を高く上げて、イエス様に向かって歌う歌
④自分にしか歌えない歌い方で歌う歌

先日のクリスマス礼拝では、子ども讃美歌40番「かみさまのあいは」が歌われました。この曲も、新しい歌の一つです。

又、クリスマス祝会では、先ずキリストの降誕物語が演じられました。その中で、讃美歌「きよしこの夜」が歌われました。次の出し物の中では、いくつかの現代のラブソングが歌われました。私はそれらの曲を初めてお聞きしましたので、それらの歌は私にとっての新しい歌でした。そして、歌っている子どもたちにとっても、心新たに、心を高く上げて、自分にしか歌えない歌い方で歌った、新しい歌だったように感じました。

このように「主の慈しみに生きる人の集い」では、次々と、新しい歌が歌われていきます。そして、ただ歌うことによって、それまでの暗い心は捨て去られ、代わりに、賛美する心と体が、自分に備わって来るのです。

讃美歌とは、イエス様と私との間で歌われるラブソングです。愛なる神であるイエス様は、私たちに、「心を尽くし、知恵を尽くし、力を尽くして神を愛し、また隣人を自分のように愛しなさい」と言われます（マルコによる福音書12章33節）。

２０２４年、新しい年を、愛なる神であるイエス様を信じて、新しい歌を歌いながら共に歩んでいきましょう。

番にすることが嫌だと駄々をこねてしまう姿も見られましたが、このような経験を重ねていくことで子どもたち自身の学びとなっていってほしいと願っています。

ボッチャの後は、レクゴルフ・レクボウリングや、お手玉・けん玉などを自由に楽しみました。

そして遊んだ後は、昼食です。皆おいしいとお代わりをしてくれ、カレーも、フルーツヨーグルトも完食!! うれしい限りです。

12月は、「100万人のクラッシックライブ」を開催しました。

「100万人のクラッシックライブ」は、音楽で心の健康と豊かな体験を届けたいとの思いを込めた子どもたちに音楽を届けるプロジェクトです。

今回ライブの申し込みをさせていただいたところ快くお引き受けくださいました。その日からこのクラッシックライブを楽しみにしていました。

当日は、甲斐田柳子様と釘宮真美様のお二人でのライブを楽しませていただきました。甲斐田さんは、現役の北九州グランフィルハーモニー管弦楽団員。釘宮さんは、九州山口音楽協会ドリカムピアノコンクール大分地区審査員をされるなどプロの演奏家のお二人です。

ライブは、期待以上のもので、バイオリンやピアノの音色が心に響き、胸が熱くなり、素晴らしい体験となりました。

目をつぶりじっとバイオリンの音色を聴いている子どもも音楽を全身で楽しんでいる様子がうかがえました。

最後にバイオリンを弾く甲斐田さんが、客席の中に入っていき、間近でバイオリンの音色を聴かせていただきました。子どもたちにとって初めての印象に残る経験となったことでしょう。

これからも有意義な体験ができるよう取り組んでいきたいと思います。

コンサートの後、別府北ロータリークラブの皆様からお菓子のプレゼントをいただき、大喜びでした。

クリスマス会は、カレー・ピザ・唐揚げ・フルーツヨーグルト・ジュースなどの食事を摂り、最後にクリスマスプレゼントとケーキをもらって本日の活動を終えました。

子どもたちにとって幸せなクリスマス会になったのであれば幸いです。

一燈園の皆さんありがとう

堀田一燈園の皆さんが、子どもたちのために作ってくれたクリスマスカードとお菓子をサンタとトナカイに扮した代表者のお二人が届けてくださいました。

久しぶりに直接お会いし温かい雰囲気の中で交流することができました。今後もこの繋がりを大切にしていきたいと思います。

栄光園のご支援者

ご支援ありがとうございます。

栄光園は多くの皆様の継続した温かい思いによって支えられてきたことを心から感謝いたしております。皆様のこのような思いは、子どもたちの成長に、また、働く私たち職員の励みに大変大きな力となっていることをいつも嬉しく思います。

【2023年10月1日より2023年12月31日まで】

賛助金

安部保様 別府市
安部良一様 日出町
池田順行様 町田市
金谷正明様 大分市
木村洋子様 大分市
吉良頌三様 別府市
真閑公認会計士事務所 真閑孝也様 大分市
長谷川士郎様 別府市
帆足和生様 別府市
松本常圃様 別府市
宮本妙子様 別府市
山川百合子様 中津市
山口産業㈱様 別府市
㈲栄光建設 塩月逸男様 富田林市

一般寄付

21世紀キリスト宣教会日出の教会様 日出町
飯田法子様 佐伯市
伊勢方信様 別府市
岩田智子様 大分市
エンジョイゴルフイン大分事務局様 別府市
大分銀行労働組合様 大分市
税理士法人 大分綜合会計事務所様 別府市
大宮遊技場組合様 さいたま市
荻野克彦様 箕面市
影山隆之・由利様 大分市
亀井浩様 別府市
川本順平様 別府市
三栄建設工業㈱様 大分市
島田晋様 大分市
第一生命労働組合大分支部様 大分市
南立石地区社会福祉協議会 会長 高木政嗣様 別府市
㈲ちはらコーポレーション様 別府市
匿名様 別府市
㈲豊田緑化 豊田憲生様 別府市
日本競輪選手会 大分支部様 別府市
原順子様 別府市
別府不老町教会様 別府市
別府不老町教会 婦人会様 別府市
医療法人松本小児科医院 松本重孝様 別府市
吉村克幸様 福岡市

自立進学資金

安東秀典様 大分市
岡口文明様 大府市
荻野克彦様 箕面市
梶原康弘様 大分市
神鳥慶子様 国東市
㈱大一薬品くろーばー薬局様 別府市
波多野郁子様 別府市
姫野善昭様 別府市
平川順子様 別府市
南範子様 中津市

特別物品寄付

お菓子 衛藤瑛大様
おせち料理 アサヒグループ 平間友也様
クリスマスのお菓子 安部純子様
みかん 安部農園（むぎの会）様
乳児パジャマ 安東秀典様
乳児パジャマ 池田絢子様

さつまいも　伊藤一幸様
花梨　猪股通安様
プラモデル　今野裕子様
クリスマスケーキ　㈱イマハシ様
米　インホープ㈱・北崎直也様
みかん　上杉敬三様
米　匿名様
衣類　梅木善雄様
米　大分県農業共済組合様
書籍　大分県遊技業協同組合様
お菓子　たんぽぽ食堂(こども食堂)大柳恵子様
米　荻原書籍様
トマト缶・大豆・レンコン水煮・他食材
(一社)おふくわけ 代表理事 三ヶ尻英明様
イチゴ　ガーデン歯科様
乳児用衣類　加藤友紀様
抱っこ紐・衣類　Cuddle/up　藤川安優様
ぶどう　角脇博文・多喜子様
食品(ジュース・カップ麺・白だし・卵)　㈱フレイン様
衣類　川辺美穂様
おせち料理　ぐるーん大分様
わらび餅　黒木正道様
米・みそ・ドレッシング
大分県社協　フードバンク様
米　匿名様
抱っこ紐・衣類　COQUETTE　帯刀沙樹様
パン・瓶　ココラート様
靴　まえはら薬局　後藤としみ様
柿　後藤正勝様
お菓子(クリスマスプレゼント)　三栄建設工業㈱様
チャイルドシート　志賀太一様
洋服・おもちゃ　清水沙椰様
事務用品　下村朋子様
お菓子・雑貨　㈱ジャムズ様
シャンメリー　全国シャンメリー協同組合様
クリスマスケーキ　白石郁様
みかん　荘寿会 会長　安達輝久様
きゅうり・ナス・トマト・レタス他
かぼちゃ　高橋惠一様
衣類　谷口吉男様
絵本　チャリティーサンタ大分支部(西嶋しのぶ)様
クリスマスケーキ　㈲TN保険ひろば様

お菓子　匿名様
パン　友永パン様
乳児パジャマ　友永優子様
素食カレーフレーク　内藤彰信様
図書券・ボディーソープ ビューティモア　中村雄一様
みかん・梨　中山田正春様
ケーキ　和みsweets笑音様
お菓子　南光物産㈱様
図書券・ボディーソープ
WEST VILLAGE　西村大輔様
かぼちゃ・栗・梨　二宮洋典様
衣類　二ノ宮綾子様
お菓子　日本競輪選手会大分支部様
お菓子　日本恵教会様
洋服　野中優子様
手作りアロマリップクリーム　ハンドバードの皆様
QUOカード
ファミリーマート&むすびえ助成事業様
ヨーグルト　布亀㈱マザーケア宅配事業部
大分デリバリーセンター様
衣類　藤岡真梨子様
おむつ・ミルク・おもちゃ・雑貨
フルゴスペル大分教会様
書籍寄贈
㈱フレーベル館出版／コンテンツ事業部
出版マーケティング部　CSチーム様
お菓子、米　別府北ロータリークラブ様
クリスマスプレゼント　釘宮英子様
アドベントカレンダー　別府不老町教会様
タオル・バスタオル・本・玩具・スタイ・お菓子　別府保護区保護司会　かがやきの会様
DVD　ほっともっと様
クリスマスカード、お菓子　堀田一燈園様
里芋　松田正人様
お菓子
別府国際観光港みなとまちづくり協議会
みなとオアシス別府港 会長 奥村伸幸様
服・布団・本　宮田愛子様
さつまいも・みかん　むぎの会様
お菓子　明治安田生命大分支社 別府営業所様
クリスマスプレゼント
明治安田生命　大分北営業部様
パン　石窯工房モコモコ別府店様
クリスマス飾り　門司一徹様

オムツ　山中真志穂様
栗・みかんケーキ・箱ティッシュ　山本宣雄様
衣類　山本惠美子様
ぬいぐるみ(くま)　山本美香様
米　幸野智明様
鏡餅　㈱ゆのたに
絵本　横浜幸銀信用組合様
さんま　渡辺貞夫様
手作りおもちゃ　橋本真奈美様
米　幸野智明様
米　加藤英敏・敏夫・千佳様
スタイ・ガラガラ　冨髙信子様
ズボン　鈴木直美様
乳児パジャマ　プールヴーのお客様
乳児パジャマ・お菓子　佐藤尚子様

招待・奉仕

ハンドマッサージ　ハンドバード様
散髪奉仕　WEST VILLAGE 西村大輔様
散髪奉仕　beauty MORE　中村雄一様
散髪奉仕　Hair Salon Aiwa　立川奈美様
金曜学校　別府不老町教会　川野　是様
金曜学校　別府不老町教会　尾崎二郎様
金曜学校　別府教会　庄司宣充様
金曜学校　別府野口教会　清野　量様
ごはん応援PJ　上野史子様　山口智美様
平川順子様　前田綾子様
書道　荒金節子様
集いの場くるみ　平川義文・平川順子様
前田綾子様・中武浩太郎様
明治安田生命大分支店別府営業所の皆様
くるみ・クラッシックライブ
甲斐田柳子(バイオリン)様
釘宮真美(ピアノ)様
学習支援　大分大学学生・原優月様
演劇招待　劇団立見席様
小中学習ボランティア
安東秀典様・井上せつ子様

前号(133号)で、左記のとおり掲載の漏れがありました。お詫び申し上げますとともに訂正をさせていただきます。
【特別物品寄付】　お菓子　江崎博登様

職員の動静

採用

児童養護施設栄光園
加来　雅也（保育士）　10月11日付

賛助会員募集

年会費、一口千円、但し、何口でも、分割も可。ご連絡いただければ職員が参上します。栄光園賛助会事務所は、別府市南荘園町3組です。賛助会員の皆様には、栄光園の広報誌『栄光園だより』を送付させていただきます。

郵便局での振込は左記までお願い致します。
□座名義　社会福祉法人　栄光園
□座番号　01930-2-20748

苦情等相談窓口

＊法人および各施設での苦情等は下記の連絡先へご相談ください。
tel.0977-23-2827
fax.0977-23-7520
mail eikoen@live.jp

編集後記

2024年の幕開けは、衝撃的なものとなりました。令和6年能登半島地震、航空機事故で被害を受けられた皆様が一日も早く日常を取り戻していけることを心よりお祈りいたします。
「災害は忘れたころにやってくる」災害への心構えだけは、忘れずにいつも持っていようと思います。どんな状況の中でも今自分に何ができるのかを自身に問いながら新しい年を過ごしていきたいと思います。（原田）